

中村ただしの幸せ市政プラン実現日記

Part 5 交通先進都市しらおか②「夢のある道路」



4年前に発行した『白岡街づくり勉強会通信』
(平成31年4月)

前回は交差点への車止めポール設置の実現についてお話ししましたので、今回も引き続き私の公約「幸せ市政プラン」の第1点目である「交通先進都市しらおか」についてお話しします。この公約では「進行中・工事中の都市計画道路については原則として全線につき早期の完成を強力に推進しつつ、次期都市計画道路の早期採択によりさらなる延伸を図ります」とお約束しました。

特に、白岡駅東口からB&G海洋センターまでの道路(白岡駅東口線)と、白岡駅西口からいたま栗橋線までの道路(白岡駅西口線)の2本については、4年前の平成31年4月に『白岡街づくり勉強会通信』で「夢のある道路を早く作りましょう!」と呼び掛けたことがあります(左記参照)。このうち、白岡八幡神社の参拝客倍増と表参道となる白岡駅西口線への石畳や灯籠の設置の提案については市政通信第3号の特集で扱いましたので、今回は白岡宮代線の延伸構想を取り上げます。以下、この点

を自動運転バスの導入にからめて論じた令和2年3月議会の一般質問の要旨です。

◇ ◇ ◇

中村 第5次総合振興計画によれば、白岡

宮代線はB&G海洋センター前交差点からさらに菁莪地区を縦貫して宮代町方面へと延伸される構想だが、この点に関する9月議会の同僚議員の質問に対する答

弁を拝聴する限り、白岡宮代線の延伸線は宮代町の都市計画道路「万願寺橋通り

線」と接続する構想であるかと思われる。これらの都市計画道路が完成すれば、白岡駅東口から東武動物公園西門へのアクセスは劇的に改善し、恐らく5分程度で往来できることになる。そうなれば、白

岡駅東口から東武動物公園西門の間で菁莪地区巡回バスを走らせることの実現性は非常に高くなる。すなわち、たとえ自動運転技術を活用して大いに経費を圧縮

できるとしても、恐らく菁莪地区の住民の皆様だけでは当該バス路線を黒字にす

るだけの十分な利用者は確保できない。バス路線を黒字にし、市の財政からの持出しなく持続可能なものとするためには、やはり東武動物公園の入場者をターゲットとしなければならない。白岡市と宮代町に跨るレジャー施設「東武動物公園」の年間入場者数は約127万人で、動物園としては全国5位を誇る。当市がこの

ような素晴らしいレジャー施設を擁しながらも、みすみすこれを活用しないのは、まさに宝の持ち腐れであり、非常に勿体ないと感じる。したがって、今後自動運転技術による巡回バスのルートを設計するにあたっては、しっかりと東武動物公園を考慮に入れたものとする必要がある。現在、約127万人の入場者のほとんどは、自家用車や観光バスか、東武スカイツリーライン・伊勢崎線・日光線のいずれかの交通手段を利用していている。しかし、もし宇都宮線の白岡駅から東武動物公園への公共交通によるアクセスが可能になるならば、その何割かがこちらに流れてくることは確実だ。勿論その前提として、白岡駅のプラットフォームや宇都宮線の車両広告等において白岡ルートのアクセスを十分に周知し、さらに各種交通検索サービスの情報更新を適切に行う必要があるが、そのようなコストや手間暇を惜しまなければ、巡回バス白岡駅東武動物公園線は十分に黒字路線となるものと考える。

なお、その際東武鉄道から一定の乗客を奪ってしまうことになるのではないかという懸念もあるが、宇都宮線は上野東京ライン・湘南新宿ラインや東海道線・横須賀線・伊東線と直通運転を行っているので、宇都宮線の車両広告等で周知活動を行うことにより、埼玉・栃木・茨城・

東京・神奈川・静岡の1都5県に広く周知が及ぶ。これは東武鉄道のカバーできない範囲を広範にカバーすることにより、結果的に東武動物公園の利用客自体も増加し、結局のところ、東武鉄道としての収支は全体として改善すると考える。したがって、その点率直に商売の利害を説いて理解を得るならば、東武鉄道を味方に理解を得ることも十分可能かと思う。

私はつねづね「経済とは最大多数の最大幸福を実現する互恵の道、経世済民の道である」と考えており、経済におけるバイの奪い合いの問題は、全体としての場合解決できると考える。本件は、まさにそのような場合に該(あた)る。以上縷々(るる)述べてきたところにより、白岡宮代線の延伸の決定にあたっては東武動物公園へのアクセスを意識したバス通りとして整備する前提でこれを行う必要があると考えるが、いかがか。

部長 白岡宮代線の延伸構想が実現すると、白岡市と宮代町方面を結ぶ東西方向のネットワークが形成された広域幹線道路となる。その道路構造は2車線の車道と両側に歩道を整備し、バスなどの大型車両の通行に支障がない道路となることが想定されるから、東武動物公園方面等へのバス路線として利用されることも考えられる。令和元年9月定例会で答弁したとおり、既に都市計画決定された区間の整備の見通しが立った段階で、ルート選定等の諸課題を十分に検討するとともに、引き続き宮代町と連携・調整を図り、事業を進めてまいりたいと考えている。

(つづく)

